

郡上農林事務所の普及活動状況 令和6年6月30日現在

今月の重点活動

■スマート農業 中山間地域水田農業に対応したスマート農業研修会を開催

県スマート農業推進室の主催で、6月5日に白鳥町で中山間地域の水田における省力化に向けたスマート農業技術力向上研修が開催された。

中山間地域の水田農業は、担い手の高齢化やオペレータ不足、また傾斜地で圃場が小さく散在しているため、草刈など畦畔管理や水管理に苦勞している。こうした課題を解決するため、研修会ではロボット田植機・リモコン式草刈機・水位センサー・アイガモロボット等スマート農業機器の活用や操作方法の実演が行われた。当日は、地元生産者が多く参加し、興味深く見学していた。

農業普及課は、研修会の開催に向けた協力農家の選定など準備段階から全面的に支援した。今後も、中山間地域におけるスマート農業の導入を推進していく。



【実演会の様子】

郡上農畜水産物のブランド展開

■ほうれんそう ほうれんそう出荷組合が目揃会を開催

奥美濃ほうれん草出荷組合は6月4日に目揃会を開催した。目揃会では、令和6年度の出荷規格、出荷時間等の出荷方法の確認を行った。また、全農や市場関係者からは、地球温暖化の影響で、ほうれんそう作りが年々難しくなっているが、遮光資材の活用等の高温対策により継続して出荷されるよう産地への期待が伝えられた。農業普及課からは、病害虫対策を含めた栽培管理、またGAPの取り組み等について説明を行った。

農業普及課では、高品質なほうれんそうが安定的に出荷できるよう栽培技術および情報提供等の支援を行っていく。



【出荷規格等の確認】

■ひるがのフラワーサークル 高冷地切花の出荷検討会を開催

ひるがのフラワーサークルの出荷検討会が6月28日に開催された。ゆり、トルコギキョウの生産者、市場担当者、関係機関が集まり、7月から始まる出荷に向けて検討、情報交換した。

ゆり、トルコギキョウの品目に分かれ、ほ場で栽培状況を確認した後に室内で出荷検討会が行われた。検討会では出荷規格等の確認の他、各市場から市場情勢、全農岐阜から昨年度の出荷結果が報告された。普及課からは、高温対策、病害虫対策、現地試験（高温対策、土壌病害対策）について説明した。

農業普及課では、高品質な高冷地切花の安定生産に向けて、現地試験の計画支援や栽培技術等の情報提供を通じた栽培技術支援を行う。



【出荷検討会の様子】

■南天 郡上八幡南天生産組合が意見交換会を開催

郡上八幡南天生産組合は、6月28日に意見交換会を開催した。意見交換会では、栽培経験年数の長い組合員から、改植時の生育不良対策について事例紹介があった。また、若手女性組合員からは、南天栽培に興味を持った人を生産者として取り込む仕組みについて提案があるなど、活発に意見が交わされた。農業普及課は、J A、郡上市と共に関係機関として出席し、南天の出荷に関する情報を提供した。

農業普及課では、郡上市の特産物である南天の維持発展に向けて関係機関と連携して支援していく。



【意見交換会の様子】

■夏だいこん 令和6年作型の本格的な出荷を前に目揃え会を開催

ひるがの高原だいこん生産出荷組合は、令和6年作型の本格出荷を前に、出荷目揃え会を6月27日に開催し、適正な出荷選別の徹底を図った。

本年は栽培当初から害虫類が目立ったことに加え、昨今と変わらず不安定な天候が憂慮されることから、農業普及課からは、気象経過、ほ場巡回における生育状況をふまえ、状況に応じた栽培管理励行など、今後の栽培管理における注意点について説明した。

また、東海や関西などの市場関係者も出席し、情報提供され、北海道等他県産地の生産規模が縮小していることから当産地に対する一層の高品質化と出荷量増加が強く求められた。

農業普及課では、気象や病害虫だけでなく、昨今ではサル等獣害被害が発生する等、栽培環境は厳しい状況であるが関係機関と連携しながら産地支援に取り組んでいく。



【目揃えを行う生産者】